

2023年8月10日

**関東大震災から100年。いま改めて考える防災対策。
「家は防災上一番身近で大切なのに忘れられている。」ことが明らかに
～街頭インタビューや意識調査から、大半が「家の耐震補強」などの対策を意識せず～**

パナソニックホームズ株式会社は、このたび、関東大震災から100年にあたり、「住まいの防災」について考える取り組みとして、街頭インタビューやWEBによる生活者意識調査を2023年7月に実施。双方の結果から、「家は防災上一番身近で大切なのに忘れられている。」ことが明らかになりました。

今回の調査では、生活者は、防災対策において「備品・食飲料の準備」や「避難」に関する意識は高いものの、回答者の大半が、「家の耐震補強」など住宅における対策を意識していないと答えました。これは、生命や財産を守る基盤となる住まいであるものの、生活者にとっては、防災においてさほど重要視されていない結果と言えます。

当社は、関東大震災から100年の節目である今、改めて防災における住まいの重要性について考え、「災害時に家が倒れない、被災しても自宅で最低限の生活を維持できる「家」は重要な防災対策」の提供価値に基づき、『毎日と、万一の安心がつづく「大丈夫」と言える住まいを。』のメッセージを提唱。客観調査の結果公表や有識者による意見、啓発動画の発信などについて、広報発信をはじめ、マスコミ宣伝やWEB、住宅展示場における演出や営業トークに至るまで、統合的に訴求していくことで、住まいの防災の重要性について広く理解を得るコミュニケーション活動を展開しています。

■ 調査・情報発信の実施事項

① 品川区戸越地区における街頭インタビュー

災害時に被災規模が大きくなりやすい木造住宅密集地域（木密地域）※1がある品川区戸越地区の戸越銀座商店街で街頭インタビューを実施。「あなたの防災対策、おしえてください。」というテーマで、「家」と回答した人は45人中1人の結果となりました。街頭インタビューの動画ダイジェストは、当社のホームページで公開しています。



戸越銀座商店街

●動画:いま改めて考える防災対策(1)『あなたの防災対策おしえてください。』(60秒)

<https://youtu.be/QL7IGYiPKfI>



② 『住まいの防災に関する意識調査』を実施

2023年7月に全国1,030名を対象に『住まいの防災に関する意識調査』を実施しました^{※2}。半数以上が「日常生活において防災を意識している」と回答したものの、「意識している」と回答した人の内、災害対策で特に重要であるはずの「家の耐震補強」を実践できている人は36.6%に留まることが明らかになりました。

また、「防災と聞いた時に、一番はじめにイメージするもの」では、1位が「食料・水の備蓄の確保」(42.7%)、2位が「防災グッズの用意」(31.5%)で、「住宅の耐震補強」と回答した人はわずか6.8%に留まり、5項目中4位という結果に。「家」が重要視されていないことが顕著になりました。

● 結果サマリー

- ① 日常生活において半数以上が「防災」を意識しているものの、その内、「住宅の耐震補強」まで実践している人は約3割という結果に
 - ✓ 防災を意識している人は全体の56.7%
 - ✓ 「意識している」と回答した人の内、「家の耐震補強」を実践できている人は36.6%
- ② 「防災」と聞いた時に「住宅の耐震補強」をイメージする人はわずか1割未満
 - ✓ 「防災」と聞いた時に一番はじめにイメージするものは「食料・水の備蓄の確保」が42.7%で1位に対し「住宅の耐震補強」と回答した人は6.8%で5項目中4位
- ③ 「防災で実践していることランキング」において「住宅の耐震補強」は最下位
 - ✓ 「防災で実践していること」(複数回答)については全体の半数以上が「食料・水の備蓄の確保」「ハザードマップの確認」を実践しているのに対して、住宅の耐震補強を実践している人はわずか25.6%で5項目中最下位

③ 国土舘大学防災・救急救助総合研究所 小滝 晃 客員教授へのインタビュー動画公開

国土舘大学防災・救急救助総合研究所客員教授で元内閣府(防災担当)総括参事官の小滝 晃氏に「木造密集地域の住宅に求められる性能」について伺い、住まいにおける防災対策の重要性について、有識者の立場からご意見をいただいています。

<小滝 晃氏コメント抜粋>

——木造密集地域の住宅に求められる性能とは？

災害時に燃えないということ、そして倒壊せず小規模の被害で済む強度が必要です。木造密集地域の住宅には特にこれらの性能が求められます。

——災害に強い街づくりに必要な住宅の性能はなんですか？

減災を目指していくには、住宅の耐火性、耐震性の向上は有効です。強い住宅が増えていくことで、その地域が災害に強い街になっていきます。

- 動画:いま改めて考える防災対策(2)『木造密集地域の住宅に求められる性能について』(295秒)
https://youtu.be/8j5g9LgH_wc

◎『毎日と、万一の安心がつづく「大丈夫」と言える住まいを。』特設サイトでは、パナソニック ホームズの「災害に強い家」の特長や実際に災害を経験されたオーナーさまのインタビュー動画などをご紹介しています。

『毎日と、万一の安心がつづく「大丈夫」と言える住まいを。』特設サイトはこちら
https://homes.panasonic.com/ad_lp/daijyoubu/

- ※1: 山手線外周部を中心に広範に分布し、東京都は、2012 年から不燃化を強力に推進する「木密地域不燃化 10 年プロジェクト」を推進し、対策エリアに不燃化特区を指定の上、市街地整備を促進している。道路の拡幅や不燃化建て替えの協力者への固定資産税・都市計画税の減免なども行っています。
- ※2: 【調査概要】調査対象: 全国の 20 歳～69 歳の男女。調査期間: 2023 年 8 月 2 日(水)～3 日(木)。サンプル数: 1000 人(性年代均等割付)。調査方法: Web アンケート調査(H.M.マーケティングリサーチ)。n=30 未満は参考値として記載。

素材ダウンロード URL(共通パスワード: phsbousai)
画像素材: <https://bit.ly/47aY6mY>

□ ■ □ 本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先 □ ■ □
「パナソニックホームズ」PR 事務局(株式会社マテリアル)
TEL: 06-6456-4960 FAX: 06-6456-4961 E-mail: osaka@materialpr.jp
担当: 植本(090-4433-2868)、三木(070-3874-4269)



パナソニック ホームズは 2023 年に創業 60 周年を迎えます。これまでの「感謝」を新たな「挑戦」への力に変えて、暮らしを起点に事業活動を拓げます。お客さま一人ひとりに寄り添い、心豊かな暮らしと持続可能な社会の実現を目指し、邁進してまいります。

ご参考

■ 『住まいの防災に関する意識調査』 主要設問の回答グラフ

日常生活において「防災」を意識している人は全体の半数以上(56.7%)。うち、「食料・水の備蓄の確保」は74%もの人が実践。反面、「家の耐震補強」まで実践ができていない人は36.6%で、5項目中最下位という結果に。

図1 日常生活で防災を意識しているか

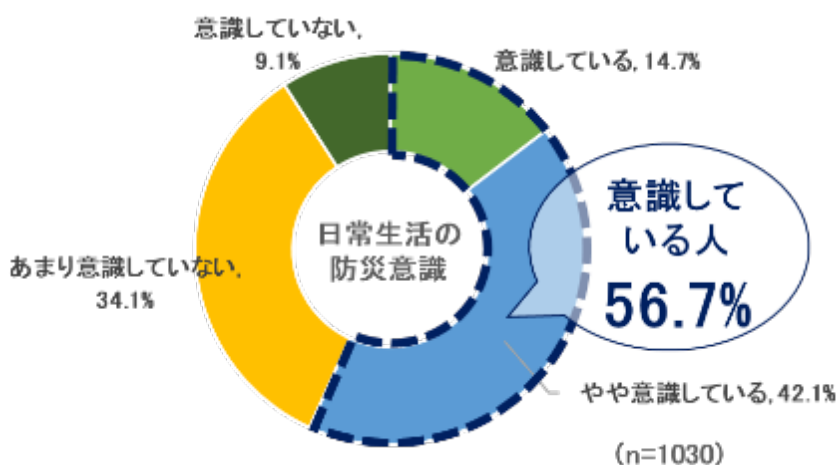
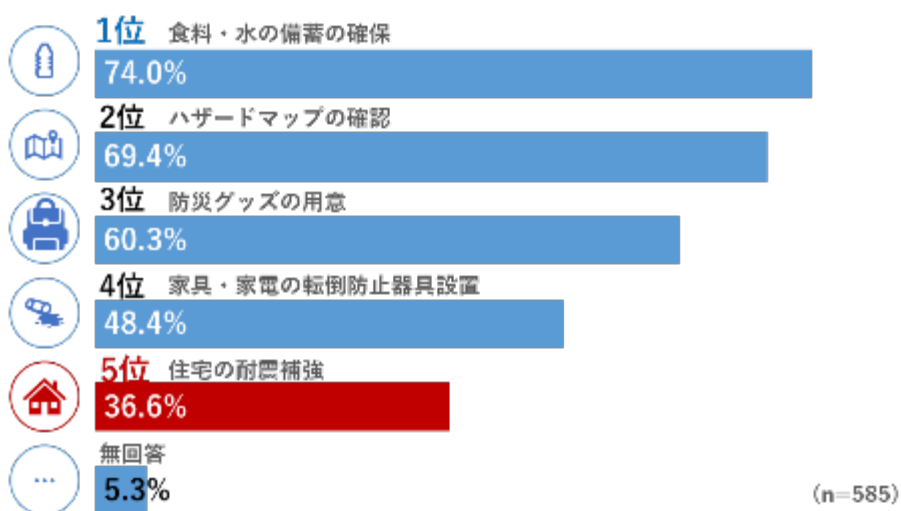


図2 図1「意識している」と回答した人が「防災」で実践していること(複数回答)



「防災」と聞いて一番はじめにイメージするものの 1 位は「食料・水の確保」(42.7%)、2 位が「防災グッズの用意」(31.5%)。一方で、「住宅の耐震補強」と回答した人は 1 割未満(6.8%)で 4 位。家は重要視されていないことが明らかになりました。

図3 「防災」で一番はじめにイメージするもの

